

七宝児童館

年間目標

- ・ 親子の関わりが豊かになるような遊びや活動を提案する。
- ・ 子どもたちが体験的に学んでいけるような遊びや生活の場を提供する。
- ・ 児童館の来館人数を増やす。

【活動内容】

- ・ ちびっこあつまれ、コアラ教室では、親子で関わりが持てる体操やふれあい遊びを多く取り入れた。また、活動の合間や自由来館の何気ない時間での保護者との会話も大切にし、信頼関係を築きながら情報交換や子育ての相談相手になれるようにした。
- ・ 小学生行事では、密を避けての内容に変更したものもあり、個人の体力測定テストやスタンプラリー形式など自分で考えて遊びを進めていくような活動も取り入れた。体を動かしたり、頭を使ったりと様々な活動をバランスよく取り入れた。
- ・ 木曜日のチャレンジ DAY では、厚生員が率先してオセロやバドミントン対決で遊びを盛り上げていき、楽しい雰囲気作りに努めた。

【反省・課題】

- ・ ちびっこあつまれ、コアラ教室では、関わりの持てる遊びや活動の提案はしているが、うまく子どもと関わりの持てない親も多い。しっかりと親子に寄り添い、関わり方の手本を示したり、助言したりして一つずつ丁寧に知らせていく必要がある。
- ・ 保護者同士のつながりで行事への参加者が増えていった。人数制限をしているが、時間内に来館された方には参加してもらっている。コロナ禍での集団の過ごし方、遊びの内容を引き続き検討していく必要がある。
- ・ 人気アニメの「鬼滅の刃」をたくさん取り入れていくことで、子ども同士でも声を掛け合喜んで来館してくれる姿が多く見られたので、満足度につなげることが出来た。(割りばし鉄砲の的、プラ板キーホルダーなど)

【次年度へ向けての方針】

- ・ 親子の関わりを重視する点で、活動内容とともに活動の意図もわかりやすく説明していく。全体を見て活動を進めていきながらも援助のいる親子にはサポートに入り、一緒に遊びを進めたり見守ったりしていく。
- ・ 小学生に喜んでもらえるよう子どもの声に耳を傾け、意見を取り入れたり好評だった遊びは内容を少し変えながら次年度も取り入れていく。
- ・ 引き続き来館者には積極的に声を掛け、いつでも安心して来れる環境作りに努めていく。

美和児童館

年間目標

- ・ 親子の関わりが豊かになるような遊びや活動を提供する。
- ・ 子どもたちが体験的に学んでいけるような遊びや生活の場を提供する。
- ・ 児童館の来館人数を増やす。

【活動内容】

- ・ 乳幼児においては、ちびっこあつまれやコアラ教室での活動を通して、親子でふれあう機会の提供をしてきた。どの親子も親子での関わりを楽しみながら参加する様子がうかがえた。
- ・ 小学生行事においては、お化け屋敷や科学実験など、子どもたちが五感を通して体験していけるような行事の提案をしたり、子どもたち主体の行事の提供をした。
- ・ 人数制限や利用方法の変更などで、様々なご意見や利用のし辛さを耳にする機会もあり、来館者も一時は減少したが、対策をしっかりとっている姿勢や、少しでも利用しやすい環境を整えることで、例年通りの利用人数になってきた。また、中学生とも積極的な関わりを持つことで、居場所として定着している様子がうかがえる。

【反省・課題】

- ・ 行事においては、感染症対策を頭に置きすぎるあまり、内容の制限をかけてしまった部分もある。そのため（保護者から行事内容への感謝や楽しかったという声もあった反面）想像と違って満足できなかったとの声も上がっていたので、新しい生活様式に基づきながらも、より満足度が高くなるような行事の内容を展開していく必要性を感じた。
- ・ 児童館の存在意義をより念頭に置いて、事業をはじめ日々子どもたちとの接し方を考えていかななくてはいけないと、子どもたちの様子を見て感じている。
- ・ 年度当初は休館や事業中止の影響により、保護者や子どもたちと接することができなかった為、昨年度までに構築できていた信頼関係の希薄化を感じた。また、閲覧後も短期間での信頼関係の再構築に難しさを感じたが、積極的に関わることで子ども達から話しかけてくれたり、遊びに誘ってくれたりするようになってきたので、引き続き、信頼関係の構築に努めていきたい。

【次年度へ向けての方針】

- ・ 世間の情勢や行事等の物事に広く目を向け、館内行事に取り入れて行くことを検討していく。
- ・ 「児童厚生員に会いたい為来館する」という保護者や子どもたちがより増えていくように、積極的に個別の対応をしたり、自由遊びの輪にさらに踏み込んでいけたりするようにする。
- ・ 子育てについての悩み等を話しやすい環境、保護者同士の輪の広がりが児童館の中で体感してもらえるような場の提供をさらに進めていく。

甚目寺中央児童館

年間目標

- ・ 親子の関わりが豊かになるような遊びや活動を提供する。
- ・ 子どもたちが体験的に学んでいけるような遊びや生活の場を提供する。
- ・ 児童館の来館人数を増やす。

【活動内容】

- ・ 幼児事業、ちびっこあつまれ、コアラ教室では、毎回行う体操、親子のふれあい遊びなど親子で体を動かしスキンシップを目的に行った。「音楽あそび」では、その月にちなんだ季節のうたを選び、手遊びや体を使って歌った。楽器あそびも取り入れ楽曲に合わせて楽器を鳴らす体験も行った。運動遊びは、飛んだり跳ねたりハイハイするなど年齢を考えて、工作あそびは季節感を大切に、指先を使ったり、素材の感触を楽しめるようなものを取り入れた。
- ・ 小学生事業では、講師を招き、車イス体験を行った。実際に車イスに乗って走行し視界の低さや段差の大変さなどを体験した。この体験を通してみんなで協力し助け合う大切さを知り、差別やいじめなどを無くしたいとの目的で計画をした。
- ・ 来館人数を増やすため小中学校に児童館だよりの掲示を依頼した。

【反省・課題】

- ・ 毎回、事業終了後に「楽しかった。」と言葉を聞いてよかった。
- ・ 子ども達に感じてほしいこと、経験してほしいことを取り入れてよかった。
- ・ 児童館だよりを小中学校に掲示の依頼を予定していたが、コロナ禍で休館などにより事業の中止や、人数等利用制限などで小中学校との連携が図れなかった。

【次年度へ向けての方針】

- ・ 今後も楽しめる活動内容を考え、自分たちも勉強し魅力ある児童館としていきたい。
- ・ 次年度も改善等の見直しを行い、今年度と同様な目標で行っていきたい。
- ・ 小学生事業はテーマを決めて行う。(次年度は「協力」にしよう話し合い)
- ・ 事業を通して、素材や材料についての知識や季節行事などの由来、雑学や豆知識など子ども達が興味を持って取り組める内容としていく。
- ・ 人数等利用制限はあるが、児童館を知ってもらうため次年度も児童館だよりを小中学校に掲示していただくようお願いしていく。

甚目寺南児童館

年間目標

- ・ 親子の関わりが豊かになるような遊びや活動を提供する。
- ・ 子どもたちが体験的に学んでいけるような遊びや生活の場を提供する。
- ・ 児童館の来館人数を増やす。

【活動内容】

- ・ 幼児親子を対象とした遊びは、童謡の伝承を紡ぎ、楽器の音を楽しみ、音楽に合わせて踊り、手遊びを取り入れた。また、紙芝居や絵本を通して、心の発達や豊かさを伸ばすようにした。
- ・ 工作あそびは、季節を考慮し年齢に合った製作で親子で楽しんでできるようにした。
- ・ 運動遊びは、身近な物（タオルやビニール袋、新聞紙など）を使って遊ぶことができることや親子で体を使って遊ぶことなど、どんな場所でも子供が楽しめ、スキンシップが図れるような簡単な遊びを提唱した。
- ・ 小学生には、楽しめることを目的として さまざまな遊びや工作を実施した。

【反省・課題】

- ・ ちびっこあつまれば、年齢が低い0・1歳児の子が多かったため、集中することができなく苦慮したが、親子で触れ合って遊べるように言葉をかけ、楽しめるよう工夫に努めた。
- ・ 密を避けるために、部屋の広い場所へ移動して取り組んだが、いつもと違う場所へ移動したこともあり、集中できなかったことが課題になった。
- ・ 現在のコロナ禍の環境下で、どのように子供同士が触れ合ったり、関わったりできるのかを模索しなければならなかった。
- ・ 小学生行事は、提供した課題の作品が、楽しめるものであったようで喜んで参加してくれた。
- ・ 今年度は、作品作りが多かったため、ゲームや伝承遊びなども取り入れなくてはならないと思った。

【次年度へ向けての方針】

- ・ ちびっこあつまれでは、親子が一緒に楽しめるものなど、要望などを取り入れた活動を心がけていきたい。
- ・ 成長に従い、踊れるようになったり、紙芝居を観れるようになったりさせていきたい。
- ・ 親の協力が欠かせないので、信頼関係を構築し、共に子育ての一端を担えるようにしていきたい。
- ・ 親同士が、児童館での出会いを通じて育児について語り合い、相談しあい、心と体をほぐせるような場所づくりにしていきたい。
- ・ 小学生には、居心地の良い空間を提供する中で、自発的製作やあそびを構築できるようにしていきたい。
- ・ 親子が楽しめ、帰宅した後も家族で子供の成長の様子を共有できる遊びをたくさん提唱したいと思う。

甚目寺北児童館

年間目標

- ・ 親子の関わりが豊かになるような遊びや活動を提供する。
- ・ 子どもたちが体験的に学んでいけるような遊びや生活の場を提供する。
- ・ 児童館の来館人数を増やす。

【活動内容】

- ・ 遊びを通して健全育成を図り、かつ保護者支援に努めた。
- ・ 行事においては、乳幼児親子対象に親子の関わりが多くもてることを心がけ、児童に対しては、季節にちなんだ行事・製作・体を動かすことを中心に企画し、やりたいことに参加できるような募集や、新しい遊びを提供したりして行事を行った。
- ・ 何気ない会話をする中で、保護者の困っていることの話を知ったり相談にのったり、親子の関わり方を自然な雰囲気の中で見せたりした。
- ・ 異世代交流ができるような声掛けや環境作りに努めた。

【反省・課題】

- ・ 閉館している間、児童館に来ることができず困っている子や保護者の把握をして、できることを探し提案、少しでも実行に移さなければいけなかったことを反省する。
- ・ 親子の行事で、触れ合いの部分が多く取り入れるよう心がけると、笑顔になる親子の姿も多く見られてよかった。今後も児童館以外の場所（場面）の親子の関わり方のきっかけに、また子どもの安心感につながるとういことを考える。コロナ禍、来館者同士の関わりが持てなかったのも、次年度には取り入れていきたい。
- ・ 児童に対しての行事を企画する中で、自ら「参加してみたい」と思ってもらえるような集客方法を考えた。行事を目当てに来館する子が増えたり、児童クラブでの参加は自由にしたこと、逆にやりたいという気持ちが高まったり、気が進まないことはしなくてもいいという選択もできよかったと思う。また行事で行ったことが自由来館時の主体的な遊びにつながっている姿が見られることもありよかった。

【次年度へ向けての方針】

- ・ 安全で皆が安心して遊びに来ることができる環境作りを引き続き行う。
- ・ 乳幼児親子に対して、次年度も引き続き親子の関わりが多くもてるような行事の企画をし、保護者・子ども同士がふれあえるような集団遊びも取り入れる。児童の行事に対しては、季節・興味・流行等を考慮して企画し、自分で考えたり工夫する部分を残しておいたりし、柔軟に対応できるようにする。
- ・ 新しい遊びの提案をしていくため、来館者の成長に合わせた遊びの引き出しをスタッフ同士で共有する。
- ・ 単に来館者数を増やすだけではなく、「今後もやりたい」「児童館へ行くと楽しいことがあった」「困っていたが安心できた」等の来館者の満足度・安心度を増やす。
- ・ 館内での携帯電話のルール作りを、子どもや保護者と一緒に話し合ったり考えたりしていく。
- ・ 異世代交流を次年度も進めていく中で、お互い無理のない範囲で、乳幼児・乳幼児親子・小学生・中学生・高校生・老人との交流ができるよう企画したり、自由来館の中で声をかけ、顔見知りが多くなるようにしていく。将来的には、地域の人と見守り合う体制につながっていくようにしていきたい。

甚目寺西児童館

年間目標

- ・ 親子の関わりが豊かになるような遊びや活動を提供する。
- ・ 子どもたちが体験的に学んでいけるような遊びや生活の場を提供する。
- ・ 児童館の来館人数を増やす。

【活動内容】

- ・ 乳幼児の行事では、運動・音楽・工作あそびを実施した。それぞれ体操・楽器演奏・工作（物作り）を通して、親子でふれあう機会を作った。また、読み聞かせ・手遊び等による親子のふれあい遊びも行った。また、職員の子育て経験等を伝え、保護者が抱える子育ての悩み・不安が少しでも軽減できるように、相談できる環境を整えて保護者との信頼関係を深めた。
- ・ 小学生の行事では、まとあてゲーム・ドミノであそぼう等のゲームを体験することで、ドキドキ・ワクワクや達成感等を、実感できる行事を提供した。

【反省・課題】

- ・ 新型コロナウイルスによる緊急事態宣言により、行事は10月からの開始となり、人数制限・時間制限などがある環境の中、例年通りの内容の行事を実施する事は難しかったが、「楽しかった」「元気がでた」との声も多数頂きホッとした反面、人数制限で行事に参加できなかった親子には胸が痛み、その受け皿をどうするのが今後の課題だと考える。
- ・ 小学生の行事については、下準備を入念にして3密を避ける為の工夫をした。その中でも子ども達が、達成感や満足感を得ることが、とても大切であり、引き続き職員主導の一方的な行事の展開ではなく、活動の主体である子どもの立場に立った活動の展開に努めていきたい。

【次年度へ向けての方針】

- ・ 新型コロナウイルス等の影響により情勢は変わると想像されるが、状況に応じた児童館の対応ができるように努めたい。
- ・ 小学生や幼児親子が、行事以外でも心の元気を求めて、児童館に足を運んでくれるように職員との信頼関係を深め、さらに環境を整えて来館人数の増加をめざしたい。
- ・ 今年度好評価だった行事については、次年度にも積極的に取り入れたい。